

エッセイ 楽しい“虫音楽”の世界 (その17 シェイクスピアの虫音楽)

昆虫芸術研究家

柏田 雄三 (かしわだ ゆうぞう)

今年はシェイクスピアの没後400年だった。イタリアのマリオ・カステルヌオーヴォ＝テデスコ(1895～1968)というやたら長い名前の作曲家をご存じだろうか。ギター音楽好きにはロドリゴのアランフェス協奏曲と並ぶ美しいギター協奏曲第1番やギターソロ作品等で知られる人だ。彼はシェイクスピアに傾倒し、それをもとに曲をたくさん作った。《ジュリアス・シーザー》や《アントニーとクレオパトラ》等壮大な11曲もの序曲は2枚のCDに収められている。これらはシェイクスピアの原作をよく反映しているそうだが、ロクに読んでいない私にはわからない。これ以外に歌劇や歌曲もあるらしい。

シェイクスピアを音楽にしたのはもちろんテデスコだけではない。《マクベス》《オテロ》《ファルスタッフ》のオペラ3曲を作ったヴェルディのほうがるかに有名だ。吹奏楽の大家リードに5曲、アデス(テンペスト)、ウェーバー(オベロン)、グノー(ファウスト、ロメオとジュリエット)、チャイコフスキー(ロメオとジュリエット)、パーセル(妖精の女王)、ブリテン(夏の夜の夢)、ベルリオーズ(ファウスト)、メンデルスゾーン(夏の夜の夢)、ロッシニ(オテロ)等数多くの作品がある。マスネのオーケストラ組曲第3番《劇的風景》も「テンペスト」「オテロ」「マクベス」に基づくそう。なお、従来の「真夏の夜の夢：A Midsummer Night's Dream」を「夏の夜の夢」と訳す場合がある。

昆虫に注目してシェイクスピア作品に基づく曲を聴く。最も多いのは「テンペスト(嵐)」の中の「蜂に混じりて蜜を吸い(蜂が蜜吸うところ)」で、ジョンソン、ハンフリー、アーン等によるオペラがある。

ミツバチと同じ蜜を私も吸いましょう
そしてカウスリップの花に横たわり
フクロウが鳴く頃に休みましょう
私はコウモリの背に乗って飛んで
陽気に夏を追いましょう
これから私は楽しく生きましょう

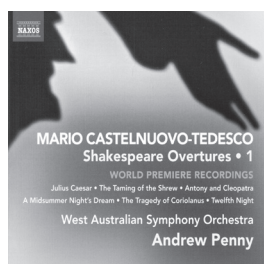
大枝から垂れる花々の下で

(訳 秋山真理子)

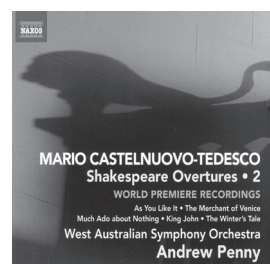
さらにシベリウスの劇音楽「テンペスト」の中や、マイケル・ナイマンの映画「プロスペローの本」の音楽、「ハチが踊る場所」という副題の「サクソフォン協奏曲」もこの詩をもとにしている。これだけ多くの曲があるのは外国の人にきつとなじみ深い詩であるためなのだろう。

これ以外ではヴェルディの《ファルスタッフ》の強欲で好色な主人公を揶揄する「でかい腹の上で蚊にアブが競い合って飛んで来い」のフレーズやメンデルスゾーンの《夏の夜の夢》に「黒いカブトムシや毛虫が妖精の女王の眠りを妨げるな」と歌われる部分がある。ブリテンのオペラ「夏の夜の夢」にも蛾の妖精が出てくる。

シェイクスピアの作品は多くの曲になったが、原作が優れているからと言って、音楽作品もそうであるわけではない。玉木正之氏によると「ハムレット」はたくさんの作曲家によって作られた36ものオペラのうち現在も上演されている作品はなく、「ロメオとジュリエット」は40作品のうち上演されるのはせいぜいグノーの作品とバーンスタインの《ウェスト・サイド・ストーリー》くらいだろう。何ごとにも通じるのだが、後世まで作品が残るのは大変なことなのである。



カステルヌオーヴォ＝テデスコ
シェイクスピア序曲集第1集
NAXOS 8.572500



カステルヌオーヴォ＝テデスコ
シェイクスピア序曲集第2集
NAXOS 8.572501